

東大和の散策 清水コース

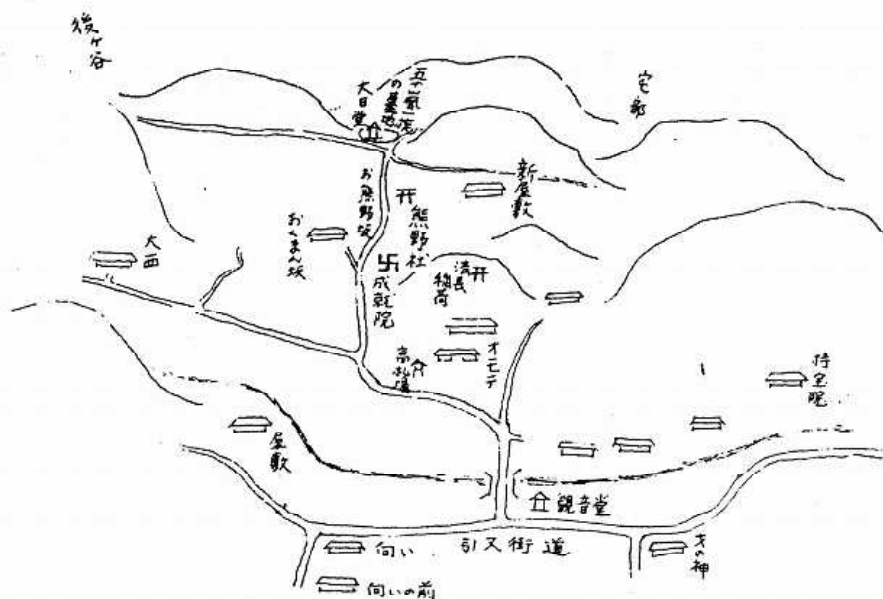
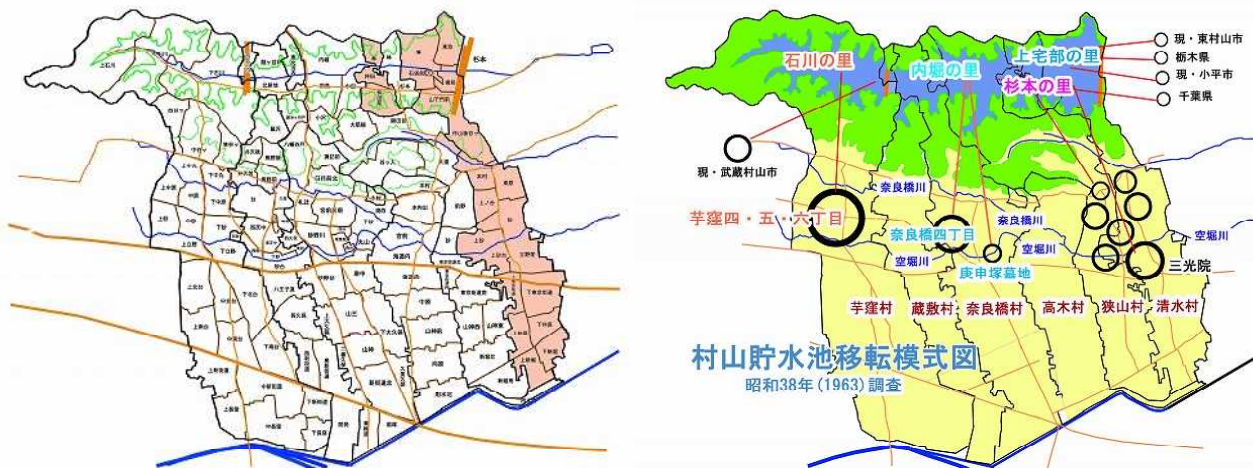
東大和観光ガイドの会 2022.10.29

本日のコース

集合・武蔵大和駅西の公園入口→①大久保家→②大日堂→③清水集会所→④上ノ台遺跡→⑤三光院→⑥お茶の木下園→⑦三角神社→⑧清水神社→⑨吉岡邸（解散）

清水

東大和市の最東にある清水は狭山丘陵の南麓に広がる清水と、貯水池に沈んだ上宅部（かみやけべ）が一緒になって清水村となっていました。上宅部は堤防の西側一帯にあり、田畑を作り、おくまん坂を通過して南の原に出て畑を作ってきました。貯水池工事のため移転を余儀なくされ、48戸の家が清水神社から新青梅街道あたりに移転してきました。三光院や清水神社（氷川神社と熊野神社を合社）も移転して来た寺社です。清水村の名主を長く務めたのが五十嵐家で、一族の墓は取水塔北側の狭山峰にありましたが、上（かみ）の大日堂と共に三光院の南に移転しています。



旧清水村のオモテにおける五十嵐一族の位置関係（一部）

五十嵐氏考（p40）

1、大久保家

代々、持宝院と名乗る力のある修験の家です。修験は祈祷料をもらい、病魔のお祓いや憑き物落としをするなど、日常生活に密接に関わってきました。修験寺院は修験の道場で、葬式や法会の執行は禁止されており墓地はありません。市内では5人の修験が活動しました。

大久保家から出た**大久保狭南**は江戸に出た文人で小金井桜樹碑、「武野八景」の著者です。かつて前川（今は暗渠）に架かる橋は「狭南橋」という名でした。



(狭南橋のある頃 2000年代)

2、下（しも）の大日堂

胎藏界大日如来を祀り、上の大日堂（金剛界大日如来を祀る）と共にセットで作られています。五十嵐家の先祖が建立しました。像には正徳2年（1712）持宝院の銘があります。修験が大日如来の造立にかかわっていました。そばに大久保狭南の墓もあります。境内には五十嵐家や村民の墓があります。



大久保境南墓碑



大日如来

3、清水集会所

よもやま話「火をふところに入れた法印さん」は持宝院の話です。薪炭を馬に載せて駄賃稼ぎをする村

**江戸への道
青梅街道**

田無から青梅まで
武蔵野の原野で
一軒の人家もなかった

小川宿ができた後の江戸街道
現在の桜街道

奈良橋庚申塚

最初の江戸街道
東大和市内では
東京街道周辺の北側を
通った

田無橋場

追分

内藤新宿
四谷大木戸

江戸

府中

立川

八王子

甲州街道

五日市街道

江戸街道・青梅街道

青梅

青梅新町

箱根ヶ崎

中蔵

砂川

小川宿

小川宿は玉川上水開削後
1656年に隆に開かれる

五日市

成木

小曾木

甲州街道

空堀川と前川に挟まれた台地に、旧石器時代から平安時代までの遺跡を含む地域が広がり、12000 年前の槍先形尖頭器・ナイフ形石器、縄文時代の石皿・磨石、縄文中期の敷石住居址、平安時代の竪穴住居址などが発見されています。



5. 三光院

貯水池下堰堤の取水塔そばにあった真義真言宗豊山派の寺で、天正 19 年（1591）家康から朱印 3 石を賜り、その後の 12 通の朱印状が残っています。開山は快元法印、後ケ谷名主の石井（杉本）美作（みまさく）が創建にかかわり、寺の奥に杉本家の墓地があります。

- ・ **金毘羅宮**（三光院の順孝比丘が文化 10 年 1813 に勧請。御前立の金毘羅大権現像が拝観できます）
- ・ **観音堂**（狭山 33 観音札所の 1 つ、千手観音を祀る）
- ・ **板碑群**（中央の大きいのが、応安 2 年 1369、徳地元年 1306 から文明 7 年（1475）まで 19 枚あります）
- ・ **舟形光背地藏**（宝暦 13 年 1763、宅部（貯水池内の清水）の女衆が光明真言百万遍記念に建立）
- ・ **杉本家墓**（後ケ谷村名主で石井（いわい）姓から杉本に代わりました。中央の墓が建立した 35 代勘左衛門盈平（みつひら）、勘左衛門定賢・平十郎林志・勘左衛門宣智・想太郎・寛一と続きます）



板碑群



舟形光背地藏尊

今回は見学しませんが、

新青梅街道の南に五十嵐家の墓があり、

- ・ 遷墓の碑（五十嵐家が貯水池建設で家も土地も墓も移さざるを得なかったと書かれる）、
- ・ 名号塔婆（元禄 3 年 1690 の造立で念仏講中の 10 村名が載る。南無阿弥陀仏の文字を彫った）、
- ・ 上（かみ）の大日堂（金剛界大日如来を祀る）、

隣には宅部から移転した中堂と原、木下家の墓があります。



遷墓の碑(五十嵐家墓地)



上の大日堂

6、お茶の木下園

新青梅街道の南にかけて、宅部移転の家がたくさんあります。木下家もその1つです。大きく育ったケヤキは移転からの100年間を見守っています。「木下園は3代続くお茶屋で、自家農園で栽培したお茶の製造と直売をしています。自家農園の茶葉で作った東京紅茶は、東京ならではの味わいです。」(ホームページより)



木下園



東京紅茶

7, 三角神社（庚申神社）

清戸街道と、山口から江戸街道に通じる古道の3角の交差点にあります。

右側の庚申塔はずっとここに祀られています，享保13年（1728）清水村11人で造立。横に「持宝院法印慶伝」と書いてあり、持宝院が関わっています。

左側は宅部の中堂から移したもので、摩滅が激しいが、「山口領宅部村」原、木下など7名の名がかすかに残ります。



三角神社(庚申神社)庚申塔



かつて、庚申神社に奉納されていた、絵馬と
わら草履（2000年代）

8, 清水神社

大正8年（1919）頃、氷川神社（三光院の西にあった宅部の鎮守）と、熊野神社（貯水池南の成就院境内、おくまん坂上にあった）を合祀しました。手水鉢は明治12年（1879）建立で、願主は森田・木下・竹内と宅部の人です。

・末社の山王社は宅部の山王池そばにありました。中に宝永7年 1710 庚待（かのえまち）の薬師如来坐像（珍しい庚申塔の一種）と、優しいお顔の宝性地蔵が祀られています。



改築される前の清水神社と末社（2003.10.13.）

9、吉岡邸

幕末・明治初期に名主をした池谷氏の家屋敷でした。近くには池谷家の分家が何軒もあります。

昭和 19 年（1944）に池谷氏の家屋敷を買い取って移り住んだ画家の吉岡堅二（1906～1990）は後半生の 46 年をここで過ごし、創作活動にいそしみました。

法隆寺金堂壁画修復では 4 人のリーダーの一人として任命され、自宅やアトリエや長屋門の一室でも作業が行われました。今日では著名な日本画家が、若手のアシスタントとして作業に従事していたのです。

2016 年 11 月に旧吉岡家住宅が国の登録有形文化財に指定されました。

春秋 2 回公開されています。今日は秋の公開日にあたり、家の中も見学できます。堅二の絵も飾られています。

ここで解散しますので、自由に見学してください。



右は主屋兼アトリエ、蔵、長屋門、中門の四種の登録証



登録有形文化財指定記念特別公開日の様子(2017.05.23.)